

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年10月22日(木)

《神様を喜ばせることで、自分も喜ぶことができましたか?》

今日の福音(ルカ 12:49-53)を見た途端、「イエス様は、平和をもたらすために来られたのではなくて、分裂を起こすために来られた」というのはどういうことか?」と思われたと思います。しかしこれは、歴史的背景を少し理解すれば、納得できることだと思います。

イエス様がこの話を話された時には、イエスと言う人物について、私たちが信じるメシアであると分かっている人はほとんどいませんでした。ただ、「あの人はどなただろう」という感じでした。しかし、イエス様についてきた弟子達は、「私たちはあなたの僕です。あなたについて行きます。」という決心をしていました。そんな中で、イエス様は、ご自分が歩まなければならない道が十字架につけられる道であることをご存知だったのでしょうか。ですから、自分がいなくなって弟子達が残ると、このような分裂が当然起こるだろうと予想されていたのです。

確かに、初期の教会ではいろいろな迫害があったし、イエス・キリストを信じようとする人々がたくさんいじめられました。家族から離れなければならない信徒もたくさんいたのでしょうか。そして、姑と嫁との関係が悪くなったこともあったでしょう。変な宗教を信じておかしくなった、と言われた人々もたくさんいたと思います。そういう歴史的なことをイエス様があらかじめ予想されて話されたことだと私は思います。

さあ、この「イエス様が分裂を起こすために来られた」という言葉を聞いて、今日私が思い出した話があります。それは、ある神学生が黙想会で発表した話です。

「おととい、私は外出をしました。横断歩道に立つとすぐ、歩行者信号が青になり、全然待たずにそれを渡りました。そして駅に着いてホームに入ると、乗りたい電車が待っていて、すぐに乗ることができました。電車から降りてバスに乗ろうとすると、そこでも乗りたいバスが待っていて、すぐに目的地まで行くことができました。ですからその日は、ものすごく運がよいと思いました。

そして、昨日は全く逆でした。横断歩道では待たなければならなかったし、駅に着いた途端に電車は行ってしまいました。電車から降りてバス乗り場に行くと、私が着く寸前にバスが行ってしまっていました。本当に今日は運が悪い、と思いました。

しかし、その夜、ご聖櫃の前で黙想する時、『運が悪い』『運がよい』ということは、自分の考え方の違いなのだと思います。というのは、『着いた途端にバスや電車に乗れて運がよかった』と思った日は、ロザリオが一環も祈れませんでした。そして、どこでも乗り遅れてしまった日は、ロザリオを2環も捧げられました。

私は、時間の節約を基準にして、『運がよかった』と判断したけれど、考えてみると、『運が悪かった』と思った日は、祈る時間がたくさんあったのではないかと、思い、反省をしました。」という話です。

さあ皆様、私たちは出来るだけ肯定的、希望的に、与えられたことや起こったことを考えなければなりません。私たちも「運がよい」「運が悪い」とよく言いますよね。でももしかしたら、「運が悪い」と思ったときが、実は一番よいときだったのかもしれない。そして「運がよい」と思ったときは、実は本当に大事なことを忘れてしまっていたのかもしれない。

従って、私たちの基準はやはりキリストであり、キリストの目で判断しようとする心が何よりも必

要なのだということです。では、「キリストの目で判断する」とはどういうことでしょうか。簡単です。今日の福音と一緒に私達が考えなければならないことは、「悪いことを避けようと努力すること。そして善をできるだけ積極的に行おうとすること。」それがキリストの目による判断なのだと思います。ですから、私達の「運がよいか悪いか」の基準は、本当は「悪を避けようとして、それができたか。善を行おうとして、それができたか。」です。それを基準にした「運のよい・悪い」が正しい考え方だと思います。「自分に多少の困難さがあったかどうかではなくて、本当に神様・イエス様を喜ばせることで、私も喜ぶことができたかどうか」、それを基準にして「自分が幸せな存在か、幸せでない存在か」判断できれば、もっといろいろな難しさを乗り越えられるのではないかと思います。

ありがとうございました。